

事業報告書

平成21年度
(2009年)

自 平成21年4月 1日
至 平成22年3月31日

平成 21 年度事業報告概要

(自平成 21 年 4 月 1 日 至平成 22 年 3 月 31 日)

1. 今年度は第 2 次 5 ヶ年計画の 2 年目にあたり、計画実現にむけて昨年に引き続き、実態調査、分析検証、計画立案作業を行いつつ、順次計画の実施に着手した。
以下、今年度の活動の概要を述べるが詳細は各事業の報告を参照願いたい。

2. 平成 21 年度の事業計画の重点項目に沿った各事業別の主な活動状況は次の通り。

(1)連盟事業の改善

第 2 次 5 ヶ年計画では期間中の収支均衡を目標とし、これを実現するために普及活動の継続により会員・会友数の継続的増加を図るとともに、魅力ある競技会の開発を行い、競技会参加者数の増加に努めることとしている。

今年度の経常増減額は、収入は前年度対比で若干減少したものの、各支出の効率化により約 1,626 万円のプラスとなり、昨年度に引き続き 2 期連続の黒字となった。

(2)普及事業部

第 2 次 5 ヶ年計画 2 年目の 2009 年度普及事業は、当該計画の基本指針に沿って下記事業の本格実施を開始した。

魅力ある競技会の開発

1)初心者向け競技会の開催／奨励／支援

入門講習会で基礎を学んだ初心者プレイヤーに競技会の楽しさを知っていただくことで会員数増加につなげることを目標に、普及事業部主催で「デビュタント杯（競技会未経験者限定）」2 回、「ビギナーズ杯△ 3MP / △ 5MP / △ 20MP」延べ 5 回の計 7 回開催、延べ 313 名の初心者プレイヤーが参加した。また、新入会を促進するため、「会友」と「一般」の参加料を別設定し、当日入会を受け付ける方式を試みたところ、計 16 名が大会当日に会員登録を行うなど、確実に新入会者増につながる成果を挙げた。さらに、これらの初心者競技会の盛況ぶりを全国の BC に紹介、開催を奨励した結果、都内のスポーツクラブでの△ 5MP 対象「クリスマスブリッジ大会」（54 名）、△ 30MP 対象「長崎居留地まつりブリッジ大会」（42 名）のほか、初心者向けフライトを設けた地方リジョナルの増加など、全国的に広がりを見せはじめた。

2) 競技会参加者への付加サービス企画の実施

①お楽しみ企画「全国ブリッジ 巡って BINGO」開始

会員のあそび心にアピールすると同時に地方リジョナルの活性化、会員間交流を促進する企画として「全国ブリッジ巡って BINGO」を 3 年の期間限定でスタート。全国 5 地域の競技会に参加するという条件をクリアしてビンゴを達成した会員が 11 名誕生。達成者には旅

行券を進呈というインセンティブ付で、会員諸氏から好評のうちに迎えられている。

②ピンクリボン運動へのチャリティー競技会（競技会事業部との連携事業）

エンゼルプレイングカード㈱から豪華賞品＋協賛金をいただいて競技会事業部が開催した「エンゼルプレイングカードチャリティーウィメンズ」（150T）でチャリティーとして集まった計¥465,050をピンクリボン運動に寄付した。エンゼルプレイングカード㈱からはこのほか「エンゼル・レッドリボン杯」「エンゼル冬季ウィメンズチーム」の計3競技会に協賛をいただいております、いずれも全フライト3位までの入賞者全員に賞品が進呈され、参加者に好評を博した。

戦略的な普及活動の展開

1)地方大都市圏の活性化

第2次5ヶ年計画に掲げられている「将来、全国レベルでブリッジを普及させていく足掛かりとして、既に多数の会員・会友を有する地方の大都市圏からターゲット地域を特定して重点的に活性化を図る」という基本指針に沿って2008年度に開始したターゲット地域を選定するための基礎調査を終了、関西地方を戦略的ターゲット地域に選定した。地元関係者と協議を重ね、同地方の活性化のために連携して進むことへの基本的合意を得た。関西地方を舞台にしたイベントへ積極的に参加したほか、活性化策のひとつとして、神戸市内に同地方第2の常設会場設立も視野に入れて地元と検討作業を続けている。

2)普及システムの強化

情報の共有により、“J C B L普及事業部－普及現場”、“現場同士”の距離が近づくことで普及力の強化、活動の活性化につなげることを目的に、全国各地で普及活動・ブリッジ指導活動に携わる会員・会友と普及事業部をつなぐネットワーク「普及ネット」を予定通り6月に立ち上げた。（立ち上げ時の登録メンバー：293名）。これにより、①大量且つさまざまな普及情報の発信が可能になった、②現場の声がいち早く伝わるようになった、③現場のブリッジインストラクター同士が互いに必要とする情報を交換できるようになった、など、めざましい成果を挙げ始め、ネットワークとして順調に機能し始めている。

国際事業の活性化

1)マインドスポーツ普及活動の支援

マインドスポーツとしてのブリッジを社会に訴求することは、ブリッジの社会的認知度向上に大きく資するとの観点から、囲碁、チェス、シャンチー、チェッカー各団体とのタイアップ活動を継続中。国際活動としては、2010年夏に開催の世界大学スポーツ連合主催「世界大学ブリッジ選手権大会（ブリッジユニバーシアード大会）」への参加を決定し、代表選手を選抜、日本オリンピック委員会を通して参加手続きを開始した。国内活動としては、囲碁関係で新たに日本棋院中部総本部主催のジュニア向けイベントに参加し、関西地方に加えて名古屋市でもブリッジ愛好者の増加につなげることができた。また、「マインドスポーツと教育」をテーマにしたシンポジウムへの参加など、ブリッジを社会的にアピールする機会の拡大につなげている。

ジュニア・ユース・シニア層への普及活動

ジュニア層：ミニブリッジでプレイの基礎を習得し、自然にコントラクトブリッジ（オークション）に進むジュニアが誕生するなど、これまでのジュニア向け活動の成果が表れ始めた。

ユース層：4年目を迎えた東京大学ブリッジ講座、正式開講した早稲田大学ブリッジ講座ともに順調に進行し、筑波大学特別講座、同志社高校課外講座につながるなど、全国教育現場での信頼向上に大きく貢献している。また、ワールドユースコンGRESSに於いての日本ユース初の世界チャンピオン誕生、慶應義塾大学ブリッジ部の復活、私立中学でのブリッジ部創設などユース層全体が活性化した1年だった。

シニア層：

シニア正会員・会友数は順調に伸び続け、2009年度末の総数は1,989名。1999年度末の総計275名の7.2倍に増加した。70歳以上の会員・会友は2009年度末で会員総数7,281名の33.8%に当たる2,464名を記録している。

(3)競技会事業部

魅力ある競技会の開発

文部科学大臣杯をこれまでのオープン/△500/△500 ウィメンズからオープン/△1000/△1000 ウィメンズ/△300 とフライト分けを変更し、参加者増を図った。

競技会の環境改善

センターサービス向上委員会がブリッジセンター及び常設ブリッジクラブの実態調査に基づきガイドライン作成の検討を行った。また、前年度に引き続きAED購入の支援を行った。

競技会運営ソフト（JTOS）の保守およびバージョンアップ

2008年10月にリリースしたバージョン2.6の保守を進め、2009年10月にバージョン2.7を、12月にWindows 7対応版のバージョン2.8をリリースした。

ディレクター育成

ナショナルディレクター養成PJが希望者に対して実習、試験などを行い、2名のナショナルディレクターを推薦した。また、前年に引き続きクラブディレクター育成のための講習会を開催した。

インターネットを利用したブリッジ

BBOを使ったユース日本代表選考試合の運営に協力した。

(4)国際交流事業部及びその他の事業

マカオで開催された第46回PABF選手権大会では、オープン、レディスが共に準優勝、シニア山田チームが第3位と表彰台を実現、その後のプレイオフでも3チームとも世界選手権への出場権を獲得した。サンパウロ（ブラジル）で行われた世界選手権では、3チームとも決勝トーナメント進出はならなかった。

世界同時大会は、前年並みの参加者数であったが、P A B F 同時大会は前年比約 4 0 名の参加者増となった。

第 1 5 回 N E C 杯は海外招待チーム 1 2 チームを含む 4 8 チームが参加し、招待チーム 7 チームと国内チーム 1 チームが決勝トーナメントへ進出し、イタリアが初優勝を飾った。

2 0 1 2 年に福岡で開催を予定している第 7 回 P A B F コングレスの実行委員会を組織し、旅行代理店の選定、会場・会期の決定、予算案の策定を行った。

普及事業部

事業の概況

【総収入 2,176 千円／予算 3,387 千円】

1. 参加料収入 (1,251 千円／予算 1,272 千円)

ブリッジを愉しむ会／ジュニア対象各イベント／普及事業部主催各初心者大会

2. 広告収入 (925 千円／予算 2,115 千円) ※別途、エンゼルプレイングカードより現物協賛 (118 万円相当)。

エンゼルプレイングカード(株) (チャリティーウィメンズチーム／レッドリボン杯、冬季ウィメンズチーム)、
日産自動車(株) (ブルーリボン杯)、(株)サダマツ、(株)ダイヤモンドソサエティ

【総支出 : 63,207 千円／予算 70,368 千円】

普及部会 [5,823 千円／予算 8,729 千円]

1. 各種イベントへの参加、体験教室・講習会の開催と援助、人材の育成など

(1) 第 24 回国民文化祭しずおか 2009 生活文化総合フェスティバル (183 千円／予算 441 千円)

[会 期] 平成 21 年 10 月 31 日～11 月 3 日 (4 日間)

[会 場] 静岡県静岡市「ツインメッセ静岡」北館

[事業内容・成果] 地元の清水ブリッジクラブ、静岡ブリッジクラブ、SSSブリッジクラブの協力を得て下記内容でブリッジを総合的に紹介。4 日間で約 300 名が体験教室に参加した。

- ミニブリッジ体験教室、コントラクトブリッジデモンストレーションゲーム、練習サロン、ブリッジ紹介パネル／世界のカード及びブリッジが登場する小説等ブリッジ関連資料の展示、地元 BC／講習会案内資料の配布、プロモーションビデオ放映

[広報活動]

- JCB L公式ホームページでのリリース掲載
- 地元各 BC を通してのチラシ配布
- 普及通信、JCB L 会報上で会員・会友へ静岡市在住の知人・親族への案内依頼

※国民文化祭実行委員会より助成金 (計 125 千円) が支給された。

(2) 第 21 回全国生涯学習フェスティバル「まなびピア埼玉 2009」(165 千円／予算 170 千円)

[会 期] 平成 21 年 10 月 30 日～11 月 3 日 (5 日間)

[会 場] 埼玉県さいたま市「さいたまスーパーアリーナ」2 F

[事業内容] 国民文化祭と日程が重なった今回は、普及事業部が事前準備を担当し、会期中の運営は地元の川越ブリッジクラブ、JACK 大宮ブリッジクラブ、埼玉ブリッジクラブ、針ヶ谷ブリッジクラブ、浦和ブリッジ同好会が各担当日を決めて行なった。下記内容でブリッジを総合的に紹介した。

- ミニブリッジ体験コーナー (4 T)、コントラクトブリッジデモンストレーション、ブリッジ紹介パネル展示、地元 BC や講習会開催場所の紹介資料配布、プロモーションビデオ放映

[広報活動]

- JCB L公式ホームページでのリリース掲載
- 地元各 BC を通してのチラシ配布
- 普及通信・JCB L 会報上で会員・会友へさいたま市在住の知人・親族への案内依頼

[成果]

- ブリッジコーナーは入場口を入れて最初の展示コーナーであったため、全来場者に「ブリッジ」の存在をアピールすることができた。
- 設置できたテーブル数は少なかった（4T）が5日間で約400名が体験、人気コーナーとなっていた。
- 昔ブリッジをしていたという人々の来場も多くあり、ブリッジ界現状説明や県内BCへの誘致を行った。
- 学校動員が2日間あり、多くの中高生に紹介することができた。

(3) NECブリッジフェスティバル体験教室（支出：540千円／予算580千円、参加料収入：222千円／予測80千円）

[会期] 平成22年2月13日～14日（2日間）

[会場] 横浜国際平和会議場アネックスホール（神奈川県横浜市）

[事業概要・成果]

ブリッジをまだ知らない方にブリッジの楽しさを紹介する「体験教室」と入門講習をひととおり終えた人を対象に競技の楽しさを体験し、競技会への本格参加のステップとしてもらうことを目的とした「初心者大会」を二本柱に、マインドスポーツ5競技（「ブリッジ」「囲碁」「チェス」「ドラフト（チェッカー）」「シャンチー（中国将棋）」）を関係各団体の協力を得て紹介した。昨年同様、来場者が楽しみながら全種目を体験できるよう「マインドスポーツ・シールラリー」を実施、達成者には「お楽しみ福引」など、多彩なプログラムで臨んだ。初心者大会は3種類の大会（「デビュタント杯」「ビギナーズ杯△5MP/△20MP」）を2日間にわたり開催、計173名の新人プレイヤーが競技を楽しんだ。また、普及事業部のこれまでの活動で得たノウハウをこれから普及活動をめざす会員に体験してもらう場としても位置付け、ブリッジスタッフ延べ45名の中には多くの新人スタッフが希望参加したことが2009年度の特徴に挙げられる。2日間の総来場者は約350名。

<ブリッジ・プログラム> 賞品協賛：(株)オブコスメティックス

- ① ミニブリッジ体験教室… 参加者約300名
- ② コントラクトブリッジ
「デビュタント杯（競技会経験のない人対象）」… 参加者79名
「ビギナーズ杯△5MP」… 参加者72名
「ビギナーズ杯△20MP」… 参加者22名

※ 初心者大会賞品提供：(株)オブコスメティックス（1位～3位、飛び賞、参加賞）

<囲碁プログラム> 協力：(財)日本棋院

- ① 体験・対局コーナー
- ② プロ棋士による指導碁「みんなで学ぶ楽しい囲碁入門」（文化庁生活文化普及支援事業）

<チェス・プログラム> 協力：日本チェス協会…体験・対局コーナー

<シャンチー（中国将棋）・プログラム> 協力：日本シャンチー協会…体験・対局コーナー

<チェッカー（ドラフト）・プログラム> 協力：日本チェッカー・ドラフト協会…体験・対局コーナー

<シール・ラリー／お楽しみ福引> 42名が全種目を体験した。

(4) 「ブリッジを愉しむ会」（770千円／予算740千円、参加料収入：550千円／予測700千円）

[事業内容] 日頃ブリッジをプレイする機会が少ないプレイヤーを対象に懇親会形式で4回実施、計118名が参加した。※ 参加料5,000円／1人、飲食付

- 実施日/参加者数：①4/8（32名）、②7/8（28名）③10/14（28名）、④1/13（30名）

(5) ミニブリッジ指導員講習会 (0千円/予算 160千円)

[事業内容] ミニブリッジを通してブリッジのすそ野を広げるための指導員講習会開催を予算化していたが、下記理由により本年度は「指導員講習会」と銘打って予算を使う開催は行わなかった。

理由：全国レベルでの指導法の浸透、各地でイベントを開催する毎にアシスタントを務めてくださる会員がワークショップ方式(OJT)で指導法を学んでいったことなどに加え、普及事業部のこれまでの活動から得たノウハウ、マニュアル・教材が充実し、ホームページや郵送での入手が可能になったこと、さらには普及ネットワーク設立により普及方法に関する情報交換手段が確立、活性化したことなどが挙げられる。

(6) 体験教室・講習会への助成 (2,183千円/予算 2,440千円)

[事業内容]

◆ ブリッジセンター、クラブ及び個人が開催する体験教室の助成

2009年度総数： 45件、受講者 807名、1件当たり平均 18名

(2008年度総数： 45件、受講者 864名、1件当たり平均 19名)

北海道から長崎市まで 16 都道府県の教育現場や文化祭、地域イベント、国際交流イベント、市老人福祉センター、同窓会、公民館などで会員が行った体験教室の講師/アシスタント料を助成した。

- 助成を行った都道府県と件数/回数、参加者数：東京都 (12件/22回、208名)、神奈川県 (9件/14回、210名)、千葉県 (8件/9回、25名)、埼玉県 (1件/2回、17名)、栃木県 (2件/3回、54名)、茨城県 (1件、11名)、福井県 (1件/2回、44名)、山梨県 (1件、7名)、北海道 (1件、17名)、秋田県 (1件、22名)、宮城県 (1件、21名)、愛知県 (1件/2回、29名)、京都府 (2件/3回、20名)、大阪府 (2件/3回、34名)、広島県 (1回、50名)、長崎県 (1件、38名)

◆ クラブ及び個人が開催する入門教室の助成

2009年度総数： 18講座、受講者 261名、1件当たり平均 15名

(2008年度総数： 20講座、受講者 216名、1件当たり平均 10名)

札幌、横浜の老人福祉センターや宇都宮シルバー大学、所沢老人施設、福井市の生涯学習センターなどシニア世代対象の入門講習会や栃木県の放課後スクール、ジャカルタBC、他で会員が開催した入門講習会の講師/アシスタント料を助成した。

- 入門教室助成を行った都道府県と件数、参加者数：東京都 (3件、27名)、神奈川県 (3件、49名)、千葉県 (1件、10名)、埼玉県 (1件、10名)、栃木県 (3件、91名)、福井県 (1件、8名)、北海道 (4件、48名)、海外—ジャカルタBC (2件、18名)

◆ カルチャー講座アシスタント料の助成

2009年度総数： 23講座、受講者 199名、1件当たり平均 9名

(2008年度総数： 25講座、受講者 209名、1件当たり平均 8名)

北海道/東京都/神奈川県/埼玉県/千葉県/静岡県のカルチャースクール 11校で会員が開催している入門講習会のアシスタント料を助成した。

(7) カルチャースクール講師料助成 (298千円/予算 720千円)

[事業内容]

ブリッジ普及にあたって必要と普及事業部が判断した外部講習会の講師料を助成した。

- 助成を行ったカルチャーセンター：①札幌カルチャーセンター平岡、②ヨークカルチャーセンター—長野 (交通費)、③浜松SBS学苑、④JEUJIAエミフル松前 (愛媛県) 計4ヶ所

(8) 海外クラブへの支援 (2千円/予算 80千円)

[事業内容]

- 各種アドバイス支援（Eメール／対面）…一時帰国中のアブダビ日本人会ブリッジ同好会メンバーからの普及に対する相談やジャカルタや北京、ロンドン、アムステルダム、ニューデリーの日本人会ブリッジ部メンバーからの体験教室に関する相談に細やかに対応し、各種資料を提供した。
- 情報共有のため各種資料の提供…現地でのブリッジ普及に役立てていただき、新人育成→帰国後継続につなげていただくことを目的に、ブリッジ紹介総合パンフレット／「普及ネット案内資料」「ブリッジ・インストラクター登録のお誘い」を6海外BC代表に送付。（「普及ネット経費」で計上）

2. 地方クラブの調査・支援と地方会員の獲得（785千円／予算1,673千円）

- (1) 地方ブリッジの活性化と会友増加のための調査・普及活動と地方クラブ・同好会の支援のための事業。

〔事業内容〕

- 瀬戸内海ブリッジフェスタ（4月）、浜松リジョナル（8月）、中日杯・石坂杯（11月）開催に併せて体験教室を開催するとともに、地元の全メディア（新聞、テレビ）への事前告知リリース配送および直接訪問してのブリッジ広報活動を行なった。
- 長崎チェス&ブリッジクラブ主催「第2回長崎居留地まつりブリッジ大会」（9月）の広報および賞品提供等の支援を行なった。
- 「仙台地球フェスタ」（9月）で体験教室を主催した仙台BCの広報活動を支援し、配布用ブリッジグッズを支給した。

- (2) 地方大都市圏の活性化

第2次5ヶ年計画の重点目標に設定された標記事業に関して、会員の対人口密度の観点から、①大阪府、②兵庫県、③愛知県、④静岡県、⑤埼玉県を対象にしての基礎調査を終了、報告書にまとめた。さまざまなデータに基づいた調査の結果、会員数増加に最もポテンシャルを持つと推測される関西地方（兵庫県－神戸）を戦略的ターゲット地域に選定し、地元BC、プレイヤー諸氏と活性化の方法について意見交換を行う段階へと進んだ。関西地区以外に調査対象となっていた愛知、静岡、埼玉各県に関しても今後、さまざまな形で活性化のための支援を積極的に行っていく。

3. 新会員獲得活動（362千円／予算225千円）

当初、「JCB L入会キャンペーン」1事業のみを想定しての予算化であったが、前年度（2009年2月）にNECBFで開催した初心者大会「ビギナーズ杯」が大変好評であったことから、急遽9月に「第2回ビギナーズ杯」を企画実施したことにより、当初の予算より決算額が上回った。

※ 「ビギナーズ杯」参加料収入は経費を上回っているため、本「新会員獲得活動」事業は実質的には黒字である。（参加料収入は「収入」に計上されている。）

実際は：

	予算額	決算額	収入	予算残
1. 新入会・再入会・紹介キャンペーン	¥225,000	¥202,000 (89.77%)	—	¥23,000
2. 第2回ビギナーズ杯	—	¥160,042	¥162,500	(+¥2,458)

- (1) 新入会キャンペーン

〔実施期間〕2009年1月1日から4月30日

〔事業内容〕会報、JCB Lウェブサイト、各BCへのポスター配布などの方法でキャンペーン告知を行い、期間中の新入会者／再入会者／紹介者にJCB L特製QUOカードを進呈した。

※ 経費はQUOカード購入費

〔結果〕

期 間	期間中入会者	内紹介者あり	紹介者
2009年1月～4月	235名（新189／再46）	153名	83名
（2008年1月～4月	208名（新178／再30）	151名	81名
（2007年1月～4月	221名（新179／再42）	134名	70名
（2006年1月～4月	197名（新入会のみ対象）	126名	73名

※ 2006年度から実施して4年目で浸透してきたことが伺える。前年度に比べて期間中の新入会者数／再入会者数／紹介者数は各々増加した。

(2) 「第2回ビギナーズ杯」主催

9月7日、五反田ブリッジスタジオに於いて開催。参加者は午前19T、午後16T、当日会場で13名の新入会者があった。優勝賞品、飛び賞、参加賞を進呈。新人プレイヤーの今後の活発なゲーム参加を促進するため、入賞者には五反田BSの優待券を副賞として進呈した。

(3) その他の初心者大会支援

- 「第2回長崎居留地まつりブリッジ大会」（9/19、於：長崎市旧香港上海銀行…重要文化財、△30対象）
優勝ペアへの賞品提供、参加者募集チラシの作成、配布等、PR活動に協力・支援した。
※参加者：42名（県外から17名）
- 「リバティヒル・クリスマスブリッジ大会」（12/21、於：東京リバティヒルスポーツクラブ）
同スポーツクラブが初開催した初心者大会（△5。同クラブ会員以外も参加可）に、優勝賞品提供、参加者誘致のための広報活動を行い、支援した。※参加者：54名

4. 会員サービス活動「全国ブリッジ巡ってBINGO」（164千円／予算300千円）※3年事業の1年目

会員・会友が全国各地で開催される競技会の内、異なる5地方の競技会に参加することで「ビンゴ」を達成、インセンティブとして旅行券を獲得するという会員・会友を対象にした3年継続事業の1年目。

〔目的〕

- ① 地方競技会参加にあたっての付加的な楽しみの提供
- ② 会員同士の親睦、交流の活性化
- ③ 地方ブリッジの活性化

〔事業内容〕

- ① ビンゴ用紙印刷、会報・ハンドブック・普及通信でのPR
- ② ビンゴ達成者10名に、ビンゴ賞／早期達成賞を進呈
- ③ 経費：ビンゴ用紙印刷費、旅行券購入費

5. 普及ネットの立ち上げ・運営（266千円／予算1,000千円）

これまでの登録指導員制度および普及協力員制度を「ブリッジ・インストラクター」と呼称を統一して統合し、普及システム強化の基盤とすることをめざして、ブリッジ（コントラクト／ミニ）指導を通してブリッジを広めている会員・会友のネットワーク「普及ネット」を予定通り6月に立ち上げた。「ブリッジ・インストラクター（略称：BI）」には293名が登録（随時登録可）。「普及ネット」では、これまで会報やJCB Lウェブサイトを提供しきれなかった多岐にわたる細かい情報や蓄積されたノウハウなどをウェブサイト「普及通信」を立ち上げて公開、BI同士、および現場と普及事業部間で円滑且つ迅速に普及関連情報を共有することができるようになった。

〔事業内容〕

- ① 「ブリッジ・インストラクター」登録証の発行。希望者243名に郵送。
- ② インターネット上の情報共有サイト「普及通信」の立ち上げ／月次更新。更新回数計9回。当初は「ネット掲示板」形式を想定していたがJCB Lで管理可能なホームページ形式に変更したため、製作費／サーバードメイン費用が別途発生した。（ウェブ運営管理費に計上）。
- ③ インターネット非利用者92名に、紙ベース「普及通信」を郵送。

6. リタイヤ層へのブリッジ普及（100千円／予算200千円）

【事業内容】

- ① 四谷ブリッジセンターで隔週開催のシニアブリッジサロン講師料を助成。（各回5～6T）
- ② （社）中高年齢者雇用福祉協会の年鑑「ないすらいふ」裏表紙への広告掲載（経費は広報部会）
- ③ リタイヤ層のネットワーク「新現役ネット」メンバーを対象にした体験教室・入門講習会への講師紹介。

7. 休眠会員・会友への働きかけその他に実施した主な事業

休眠会友への働きかけ...未更新歴4年～10年の会員の内、40歳代～60歳代／MP50以上／国内在住の条件を満たした78名にブリッジ再開を呼びかける書状を全国のBC一覧とともに送付した。

ユース部会 [4,574千円／予算6,057千円]

若年層へのブリッジ普及のため、本年度は以下の事業を行った。

1. 青少年対象の団体（機関）との提携（47千円／予算135千円）

【目的】教育関連機関（文部科学省・教育委員会・学校・PTA等）／行政機関（都道府県・市町村等）／他組織・団体の青少年対象イベントで体験教室を開催し、ブリッジの認知度・信頼度の向上をはかることで、授業・クラブ活動への採用につなげる。

【事業内容】

- ① 文部科学省「子ども霞ヶ関見学デー」（8月、於：文部科学省）にミニブリッジ体験コーナー出展。
- ② 各地の教育現場で開催された文化祭やPTA行事、放課後の学童保育などでのブリッジ紹介活動を積極的に支援した。例：鶴沼中学校、喜連川ふれあいスクール、大学同窓会など。

2. 現役ユースへの支援

【目的】現ユース・ジュニア会友を含め、青少年がブリッジを通して心身・勉学ともにバランスの取れた健全な成長をしていくことを最優先におきながら、若年層プレイヤーの育成と底辺拡大をめざす。大学や高校のクラブへの支援、学生が運営する学生リーグへの支援・助成、意欲ある若年層のための強化プログラムなど技術向上支援、および日本代表としての海外遠征機会の提供・助成を行い、若年層がブリッジを継続できる環境を整備する。

(1) 大学クラブ新入部員勧誘活動助成（57千円／予算200千円）

【事業内容】

4月～6月にかけて行なわれた学生リーグ加盟各大学の新人勧誘活動にあたり必要となる大量のチラシの印刷、紙の提供など、現物支給などの形で支援した。

- ① 名古屋大学“名大祭”ブリッジ体験コーナー支援

② 慶應義塾大学ブリッジ部立ち上げ支援

※各大学の2009年度新人数：東北大学6名、東京大学4名、早稲田大学2名、慶應義塾大学1名、千葉大学1名、大阪大学6名、学習院大学0名。

(2) 学生合宿（学生リーグ主催）支援活動（280千円／583千円）

〔事業内容〕

2009年度学生リーグ夏季合宿・学生選手権、および春季合宿・学生選手権に初めて参加した学生20名の交通費と宿泊費を支援した。

① 夏季学生合宿・学生選手権支援（8/28～31、於：東京都江東区スポーツ文化会館）

※参加者：大学生33名（内ブリッジ1年目14名）、学生リーグOB4名

※学生選手権結果：1位－関西連合、2位－早稲田大学、3位－関東連合、3位－大阪大学、5位－東京大学、6位－東北大学A、7位－東北大学B

② 春季学生合宿・学生選手権支援（3/9～15、於：東京、国立オリンピック記念代々木青少年総合センター）

※参加者：大学生29名（内、ブリッジ1年目6名）、学生リーグOB4名

※学生選手権結果：1位－東北大学、2位－開成高校、3位－大阪大学、4位－東京大学、5位－京都大学／東京大学、6位－名古屋大学

③ プライベートスコアブック助成

3. ユース・スクール代表選抜・強化プログラム・国際試合への派遣

(1) 第46回PABF選手権大会への派遣（1,321千円／予算2,151千円）

〔事業内容〕会期：2009年6月18日～28日（11日間） 開催地：マカオ

①ジュニアチーム（U26）6名、スクールチーム（U21）5名、NPC1名を派遣

②参加選手・NPCの航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成

③ユース部会が定める「グレード1」の国際試合であることから、各選手は1人当たり3万円を自己負担した。

- ・ NPC：山後秀幸
- ・ ジュニアチーム（U26）：横井大樹、三浦裕明、小池紀彰、貴戸祥郎、松田崇志、村井健多郎
- ・ スクールチーム（U21）：服部光、村上草平、渡貫智行、杉本大輔、笹川雄太

〔結果〕

- ・ ジュニアチーム：参加10チーム中4位、ゾーン6内では3位となり、2010年のワールドユースチームチャンピオンシップの代表権を獲得した。
- ・ スクールチーム：6チーム中6位
- ・ 横井－貴戸ペア、オープンペア戦3位

(2) 第1回ワールドユースコンgresへの派遣（1,423千円／予算1,185千円）

〔事業内容〕会期：2009年8月15～23日（9日間） 開催地：トルコ、イスタンブール

①トランスナショナルチームでのエントリーがWBFより推奨されていたことから、「日本・チェコ」チームを組んだ選手2名、「ジャパン」チーム選手4名を派遣。全員が20歳以上であったことから、経費削減のためNPCの派遣は行わなかった。

②参加選手の航空運賃、宿泊費、参加料、海外保険料、ユニフォーム代を助成

③ユース部会が定める「グレード2」の国際試合であることから、各選手は1人当たり5万円を自己負担した。

- 「日本・チェコ」チーム：三浦裕明、小池紀彰（チェコ選手：Milan Macura、Michal Kopecky）
- 「ジャパン」チーム：貴戸祥郎、兼田顕治、村井健多郎、半田康一

[結果] 27の国・地域から選手189名、40チームが参加

- チーム戦： 「日本・チェコ」チーム…優勝。日本ユースから初の世界チャンピオンが誕生した。
「ジャパン」チーム…予選敗退

- ペア戦： MPペア 小池ー三浦 8位 / IMPペア 村井ー半田 6位、貴戸ー兼田 24位

※優勝した小池 / 三浦両選手の自己負担金は理事会で免除が決定された。

※航空運賃、宿泊費、参加料がそれぞれ当初の見込み予算を上回った。

(3) ユース強化プログラム (1,443千円 / 予算 1,703千円)

特筆事項：学生の休みを利用しての集中講習会に遠隔地から上京する場合は仲間の家やNPC自宅への宿泊を奨励したりなど、あらゆる側面で経費削減に努めた。

[事業内容]

2009年度の代表選手および2010年度代表候補登録を申し込んだプレイヤーを対象にメンバーの強化と選抜を目的に、実戦練習会参加費の助成、強化練習会、選考試合の開催および講師謝礼、遠方からの参加者の交通費・宿泊費の助成を行った。

- ① 集中講習会（年末特別講習会 / 強化対象試合後の特別講習会）の実施および講師料の助成
- ② 強化対象試合（柳谷杯、横浜インビテーション、朝日新聞社杯、NEC杯、木村六郎杯）参加料、遠方からの参加者の交通費・宿泊費助成
- ③ 第一次代表選考会、第二次代表選考会の実施、など。
- ④ 「日本・チェコ」チームでワールドユースコンGRESSチャンピオンとなったチェコペアをNEC BFに招待し、日本ユース選手たちの国際親睦の機会とした。（招待経費は国際交流事業部と折半）

※2010年3月、オランダで開催されたヨーロッパユースの競技会「ホワイトハウス杯」に、小池ー三浦ペアが世界チャンピオンとして特別招待され、欧州ユース選手たちとの交流を行った。

4. ユース / ジュニア会友の国際試合への参加助成 (0千円 / 予算 100千円)

[事業内容] 若年層プレイヤーが世界のブリッジに触れ、国際経験を積んでもらうことを目的に、6名を限度に1人当たり5万円と参加料の助成を行なう事業。本年度はワールドユースコンGRESSで経費がかさんだことから実施を見送った。

教育部会 [1,438千円 / 予算 2,332千円]

2008年度まではユース部会事業の中で「学校教育現場におけるユース層普及活動」として計上していたが、教育現場に直結する事業としての特性から2009年度に部会を新設して下記事業を実施した。

1. 東京大学全学体験ゼミナール「考える力を育てる / コントラクトブリッジ」(522千円 / 予算 894千円)

夏学期（第7期）、冬学期（第8期）の同ゼミナール開催を支援した。各期とも13回授業 / 取得単位数2単位。2006年4月の開講以来、これまでで約220名が履修登録し、計119名が単位を取得している。開講当時は廃部寸前であった東大ブリッジ部も活性化し、2009年度 / 2010年度と続けてユース日本代表を出すまでに復活した。東京大学に於いてブリッジが単位の出る授業として採用され、継続していることは、全国レベルでブリッジの社会的信用の向上に大きく貢献しており、早稲田大学での正規授業、同志社高校、他での特別授業採用ほか、クラブ活動の認可、文化祭など教育現場での体験イベント開催につながっている。

- 夏学期（4月～7月）：履修登録者 26 名、単位取得者 15 名
- 冬学期（10月～1月）：履修登録者 13 名、単位取得者 9 名

〔事業内容〕

- ① アシスタント（2名）、フロッターの派遣
- ② 授業準備（教材コピー、発送作業、ボード組み込み等）支援
- ③ 四谷BCで実施する最終講義（競技会、BC見学）開催支援
- ④ 受講生への会報配布支援
- ⑤ 教材／その他授業に必要な改良作業に対する支援

2. 早稲田大学「コントラクトブリッジで学ぶ数理学入門～論理的思考力を身につけよう」

(811 千円／予算 1,000 千円)

ブリッジの指導法を研究することを目的として早稲田大学内に設立された「ゲームの科学研究所」を母体に、2008 年秋、全 15 回のテスト講座を開講後、2009 年 4 月、同大学メディアネットワークセンター設置の提携講座（前期／後期各 15 回、取得単位数 2 単位）として正式に開講した。

本講座は東京大学ブリッジ授業とは異なり、ミニブリッジから入ってコントラクトブリッジの基礎までを教える独自の指導法を実験的に採用している。また、オープン科目としての位置付けで、学習院大学、学習院女子大学、日本女子大学、立教大学、東京家政大学、提携高校の生徒の履修が可能であることから、他教育現場への直接アピールができることが特徴に挙げられる。

- 前期（4月～7月）：履修登録者 18 名、単位取得者 12 名
- 後期（10月～1月）：履修登録者 25 名、単位取得者 16 名

〔事業内容〕

- ① 講師料／アシスタント料／交通費支援
- ② 授業準備費／用具の支援
- ③ 教材印刷／コピー費／宅急便等、必要経費の支援

3. 学校ブリッジ教育拡大活動（103 千円／予算 126 千円）

〔事業内容〕

(1) 筑波大学で3日間の短期集中講座実施（2月）

早稲田大学で行っている全 15 回コースのブリッジ授業を3日間9回（1日3コマ）で実施、12 名が受講した。（講師：早稲田大学ブリッジ授業担当 清水映樹氏）

(2) 「情報処理学会」で早稲田大学／筑波大学でのブリッジ講座を報告（3月）

東京大学駒場キャンパスで行われた情報処理学会第 23 回ゲーム情報学研究会で、早稲田大学ブリッジ講座と筑波大学特別ブリッジ講座の報告を行った。（報告者：滝澤武信氏／清水映樹氏）

(3) 同志社高校（京都）で3回のブリッジ特別講座実施（6月～2回、3月）

ブリッジに理解のある同校教諭の方の尽力で社会科の授業の特別編として3回開催、経費の一部を支援した。計 72 名の受講生の内、6月の受講生数名が同校の了解を得た上で京都大学ブリッジ部を訪問、ブリッジ交流の機会が持たれた。（講師：高橋弦志氏、前田尚志氏）

(4) 上宮学園高校（大阪市）の生徒たちが大阪ブリッジセンター訪問（8月）

教諭がプレイヤーの同校生徒たちが大阪ブリッジセンターを訪問して講習会に体験参加。同校のホームページでも紹介された（8月）。

(5) 開成中学（東京）で教諭による春休みブリッジ体験会開催（3月）

ブリッジに理解のある教諭の方による体験会に教材、マニュアル等の支援を行った。20名が参加し、ブリッジ部創設につながった。

(6) 岐阜県大垣市の公立小学校でミニブリッジが通年のクラブ活動に採用された。

4. 学校担当ブリッジ講師養成講座の開催 (0円/予算312千円) ※本年度は実施せず

小学生から高校生を対象とするブリッジ授業の講師として、あるいはクラブ活動指導者としてなど、さまざまな教育現場でミニブリッジ/コントラクトブリッジを対象年齢に応じて適切に指導できる講師を養成することを目的に計画していたが、対象となる学校が登場後に学校側のニーズに応じて養成するなど、ケースバイケースで対応する方式をとることを教育部会で決定。本年度の開催はゼロであった。

ジュニア部会 [支出: 2,132千円/予算2,339千円]

ジュニア部会としてジュニア層を対象に下記活動を行なった。

●ジュニアくらぶ会員数: 224名 (内、JCBLジュニア会友: 67名)

1. ジュニアくらぶ活動 (803千円/予算882千円)

[目的] 「ジュニアくらぶ」システムを活用しながら、ジュニア層およびその保護者に対するブリッジの認知度・イメージ向上、ジュニアプレイヤーの数的・地理的基盤の拡大を図るとともに長期的にブリッジを継続してもらえるような将来のブリッジ界を担うジュニアプレイヤーの育成をめざす。

[事業内容]

- (1) ジュニア層向け普及広報活動全般の企画・運営
- (2) ジュニアくらぶイベントの企画・運営 (ジュニアサロン、橋之介道場、ジュニアキャンプなど)
- (3) ジュニアくらぶ活動の運営・管理 (会員データ管理、スタンプラリー運営・管理・景品購入、など)
- (4) ジュニア向け広報 (ジュニアくらぶ通信の製作—夏号/秋号を発行、会報ジュニアコーナー、チラシ、ウェブサイト、登録者向けメール配信など)
- (5) ジュニア向け指導システム・ツールの企画・開発 (コントラクトブリッジへの移行を含み、指導法の開発、ジュニア向け汎用教材の開発、指導者・普及協力者の開拓、など)

[活動状況]

ジュニアくらぶ会員数 (2010年3月末日時点): 224名 (うちJCBLジュニア会友: 67名)

2009年度のジュニアくらぶイベントへの延べ参加者数: 387名

2. ジュニアサロンの開催 (183千円/予算166千円)

[目的] ジュニア層がミニブリッジを体験、練習できる機会を参加料無料で提供し、初心者たちがミニブリッジに親しみ、楽しみながら継続できる環境の整備をめざす。また保護者の参加も促し、家族で遊びながらブリッジを継続していける環境づくりもめざす。

[活動状況]

横浜BC会場 (開催2回、参加者延べ15名)、京葉BC会場 (5回、参加者延べ80名)

3. 橋之介道場シリーズの開催 (531千円/予算610千円)

[事業内容] 年齢と経験別に、四谷・横浜地区で原則月1回、日曜日の午前と午後に3つのプログラムを実施。その他、ポイントを絞って教える特別道場やスペシャルゲーム大会を開催した。

- (1) 橋之介ミニひろば/プレ道場 (併催)

15 回開催（四谷BC 9回／横浜BC 6回）、延べ参加者 79 名 参加料：200 円／1 名

(2) 橋之介ミニ道場

12 回開催（四谷BC 8回、横浜BC 4回）、延べ参加者 63 名 参加料：300 円／1 名

(3) 特別道場：四谷BCにて7月に開催

大人 5 名／大学生 2 名／中学生 3 名／小学生 6 名が参加

(4) スペシャル大会

3 回開催（四谷BC 1 回、横浜BC 2 回）、延べ参加者 39 名 参加料：500 円／1 名

4. 「夏休みジュニアキャンプ 2009」の開催（480 千円／予算 554 千円）

好評だった 2007 年度の親子キャンプ、2008 年度のジュニアキャンプに引き続き、同会場で 3 度目の夏休みジュニアキャンプを企画・開催した。

[目的]

- ・リピーターへ技術指導を行うとともに、ジュニアのブリッジへの興味、上達意欲を高める。
- ・ジュニアへのブリッジ普及に関心のあるブリッジプレイヤーやスポンサーの見学、研修の場として活用し、ジュニア指導者の育成に役立てる。
- ・長時間、大人数で集まることを生かし、本格的なミニブリッジ大会を行う。
- ・ジュニアの保護者であるボランティアスタッフや学生と、ジュニアくらぶインストラクター間の交流、意見交換をはかる。

[事業内容]

日時：2009 年 7 月 20 日～21 日（1 泊 2 日）

場所：東京都八王子市高尾の森わくわくビレッジ

参加者：33 名（小 1～中 2 19 名）参加費：11,000 円

- ・講師 3 名、アシスタント 3 名、ボランティアスタッフ 4 名、見学 2 名、事務局から 2 名が参加。
- ・上級者にはコントラクトブリッジ講習も試験的に導入した。

5. ミニブリッジ大会「ハシノスケ杯」の開催（43 千円／予算 50 千円）

[目的] パートナーと組んで試合をする楽しさ、勝った時の嬉しさを覚えていく機会を提供するとともに、競技会と言う形式に慣れ親しんでもらうことによりデュプリケートブリッジに対する理解を深める。

日時：2010 年 1 月 30 日（土）

場所：京葉ブリッジセンター

参加料：子ども 500 円、大人 1,000 円、ジュニア 9 名、大人 7 名が参加（うち会友 3 名）

6. 「第 2 回ジュニアチーム選手権」の開催（93 千円／予算 77 千円）

[目的] 将来、全国から予選を勝ち抜いたチームが競う「全日本ジュニアミニブリッジチーム選手権」に発展させることをめざしている競技会。出場をめざすこと、参加することによってジュニア層によりブリッジを深く知ろうという気持ちを起こさせ、プレイヤーであることを誇らしく思うような格式の高いジュニア向け競技会として定着を図る。

[実施状況]

開催：11 月 8 日、参加料：4,000 円／チーム

内容：ミニブリッジチーム戦、予選を行い準決勝以上への進出チームを決定

結果：6 チーム 24 名（小学生：21 名、中学生：3 名）が参加

広報部会 [17,521 千円／予算 20,141 千円]

ブリッジの社会的認知度を上げるため、以下の事業を行なった。

1. ブリッジ普及広報宣伝活動 (2,182 千円／予算 3,051 千円)

[目的] 現代社会においてブリッジが果たす社会的意義の視点を取り入れた広報活動をさまざまな媒体に対して展開し、ブリッジの知名度・認知度向上をめざす。

[事業内容]

(1) マスメディアへの広告掲載 (九州地域分を除く)

- 特定地域を対象に行なったブリッジPR広告：体験教室開催告知、総合PR
件数：11 件 (高松 2、浜松 2、名古屋 1、仙台 2、東海&九州 1、横浜 3)
- 全国対象のブリッジPR広告：総合PR、ブリッジと脳、世界チャンピオン 2 チーム誕生
件数 6 件：(中高年雇用福祉協会年鑑、ミスターパートナー、自衛隊広報紙、国際グラフ、読者が選ぶ売れ筋大賞 2009 年度版) ※内、FMラジオ番組「サンデーブランチ」とのタイアップ企画 2 件

(2) 対メディア広報活動

高松／浜松／名古屋でのリジョナル開催時に、全メディアを訪問してのPR営業などのほか、プレスリリース、ブリッジ総合紹介資料など自社製PR資料を常に充実させ、メディアからの問い合わせにも即対応できる態勢を整えている。リリースの送付、ウェブサイトへの掲載のほか、メディア各社に直接コンタクトして取材依頼を行い、可能な限り実際にブリッジのプレイ光景を見ていただいた上で広報活動を行った。また、クリッピングサービス業者を利用し、「ブリッジ」に関する記事(広告を除く)を年間を通じて収集、分析、広報戦略を立てる上で活用した。

[結果]

- プレスリリース作成／掲出本数：9 本
- メディア露出回数：新聞・雑誌等計 54 回、総発行部数：約 4,271 万部～(発行部数不明分多数あり)
(全国紙 8 回、地方紙 39 回、夕刊紙／雑誌／業界紙 7 回)
- テレビ／ラジオ露出回数：テレビ 2 回 (瀬戸内放送／宮城テレビ)、FMラジオ 4 回 (関東 3 回、福井 1 回)

[効果] 昨年同様、全国的に体験教室参加者数・入門講習会受講生・競技会参加者数の増加につながっただけでなく、社会的認知度を向上させ、他ウェブサイトへの掲載／新規タイアップ事業／協賛／カルチャーセンター開講／新規取材のオファーにつながった。

- 他ウェブサイトへの掲載例：大京「ファミリーファースト」(住宅産業)、「すまいる情報光が丘」(住宅産業)、新現役ネット、上宮学園、東北大学「まなびの杜」、日本棋院、Room to Read、Beer for Books、等。

2. マインドスポーツ広報・宣伝活動報宣伝活動 (305 千円／予算 792 千円)

ブリッジを世界的に普及するために、ブリッジはマインドスポーツであるとの趣旨でオリンピック運動を続けているWBFは、加盟する各国NBOにそれぞれのNOC(オリンピック委員会)への加盟を奨励している。この前提のもとに、①日本でもIMSA(国際マインドスポーツ連盟)メンバーであり、マインドスポーツという共通項を持つ囲碁、チェス、チェッカー他競技団体との共同イベント開催等を通してブリッジが知られる「回数」と「場」を増やしていく。②国内に「マインドスポーツの概念」が浸透するよう積極的に広報し、ブリッジにとって最大の広報効果となるJOC加盟への道づくりを行っていく。③囲碁・チェスなど、ブリッジより認知度の高いこれら競技団体とのジョイント活動は、それぞれの愛好者に対してのブリッジPR、また各

団体を応援している企業スポンサーへの間接的アピールにつながることから、副次的意義も大きい。これらを視野に入れ、他団体とのタイアップ事業も含め本年度は下記事業を行なった。

[事業内容]

(1) 日本チェス協会、国際囲碁連盟、日本棋院、関西棋院、日本ペア碁協会などとのタイアップ事業

- ① 「第4回関西ジュニアペア碁選手権大会」における「囲碁&ブリッジ入門コーナー」(8月、大阪)
(財)日本ペア碁協会主催、(財)関西棋院主管)のイベントに体験コーナーやミニゲーム共催の形で協力。

参加者へのブリッジPR、パンフレットや両団体のウェブサイトに乗った事で広く一般へ、また他の協賛企業へのブリッジアピールにもつながった。

- ② 夏休み ジュニア&プロ ふれあい囲碁まつり「ブリッジ体験コーナー」(8月、名古屋)
(財)日本棋院中部総本部主催のイベントでブリッジコーナー出展。
- ③ 長崎チェス&ブリッジクラブ主催「第2回長崎居留地まつりブリッジ大会」広報活動、賞品支援
チェス団体を通して、長崎県、市への強力なアピールとなった。
- ④ NECブリッジフェスティバル普及イベント「レッツプレイ マインドスポーツ」(2月、横浜)
日本チェス協会、(財)日本棋院、日本チェッカー&ドラフツ協会、日本シャンチー協会を招待してのマインドスポーツ体験教室開催。

(2) 他の団体とのタイアップ活動による広報

- ① 株ニチューとのタイアップで、丸善日本橋店でブリッジコーナーを1ヶ月設置(4/27~5/20)
- ② 株ダイヤモンドソサエティ(全国に会員制高級リゾートホテルを展開している企業)の依頼で、同社の鎌倉のリゾートホテルで体験教室を実施。(5月)
- ③ チャリティー団体「ルーム・トゥ・リード」とのタイアップで、チャリティーイベント「ビヤード・フォー・ブックス」開催時にブリッジデモンストレーションを行なった。(8月、大阪)

[効果]これら他団体とのタイアップイベントは、新規一般対象者にブリッジを直接アピールする場となったことに加え、それぞれのウェブサイトに掲載され、広報活動に広がりを与える効果があった。

(3) 図書館へのブリッジ図書寄贈活動

全国の県庁所在地の中央図書館にブリッジ紹介とともに寄贈したい旨を申し出る書状を出し、回答のあった35市町村の図書館に「ブリッジ入門」(水谷宮三著)を寄贈した。

3. 「脳科学的見地からみたブリッジの効用」研究(継続事業)(179千円/予算630千円)

ブリッジをすることは高齢者の生活上の記憶力保持に効果があるとの学会発表の広報展開事業。

[事業内容]

(1) 広報活動

- ① ミニシンポジウム「頭脳スポーツと教育ーブレインスポーツ冬の陣」でブリッジの脳研究を報告(2月、大阪)

理化学研究所脳科学総合研究センターで実施中の「将棋棋士の直観に関わる脳活動」の研究を基調講演とするシンポジウムの第2部「頭脳スポーツと脳の発育、教育効果について」に於いて、JCBLでは「ブリッジと脳ー記憶力」に関する研究を東京女子医科大学と行い、2008年に学会発表していることを報告した。

- ② 脳研究発表内容をわかりやすくPRした新規パネルを2点作成

(2) 過去に発表された海外での学術論文調査、翻訳

4. ブリッジに関する出版物の刊行 (11,460 千円/予算 11,900 千円)

[事業内容]

(1) 会報「JCBLブリテン」

①56-1号、②56-2号、③56-3号、④56-4号、⑤56-5号、⑥56-6号、各7200部発行
印刷製本費、編集料、原稿料、謝礼、送料などの経費支払い。

(2) 会報内容に関するアンケート調査実施

- より会員のニーズに合った会報にするため、会報56-3号にアンケート用紙を入れ、内容への感想・希望を調査した。
- 334名の回答者の中から抽選で50名にQUOカードを進呈した。

(3) 「JCBLHANDBOOK」5月1日7,600部発行

5. 広報ツールの製作・発行 (849 千円/予算 1,317 千円)

[事業内容]

(1) パネル・ポスター製作：

新訴求ポイントである「ブリッジと脳」をテーマにしたわかりやすいパネル、ポスターを2種、「世界チャンピオン誕生」をテーマにしたパネル、ポスターをそれぞれ製作した。

「ブリッジと脳」「世界チャンピオン誕生」を盛り込むため、既存のパネルを4種改訂製作した。

(2) 普及グッズの製作：ブリッジインストラクター用Tシャツを製作した。(200枚)

橋之介イラストメモパッドを製作した。参加賞や賞品としても提供できるようにする。

(3) 橋之介ファミリーのイラスト画11種作成：ウェブ、チラシ、ポスター、パネル、のぼりなど広報ツールに展開中。

(4) 2010年オリジナル年賀状製作

(5) 広報資料製作

5. ウェブサイトの運営 (2,544 千円/予算 2,451 千円)

[事業内容]

毎月の定例更新のほか、状況に応じての適宜改訂を行い、会員にとっては利便性と即時性、初めて訪れる一般の方にはブリッジの魅力がわかりやすく伝わるよう内容の充実をコンスタントにはかった。

※サイト全体のアクセスサマリー：4月～2月の毎月末ページビュー記録

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
132,867	137,263	113,448	127,098	134,151	142,165	141,363	127,487	136,899	150,231	240,902	—

管理費 (31,717 千円/予算 30,770 千円)

1. 各種講習会への会場の提供

2. その他目的達成に必要な下記経費

職員給料/臨時雇賃金/退職給付/福利厚生費/旅費交通費/通信運搬費/消耗品費/会議費/図書資料費等、普及・出版・広報活動に必要な経費

以 上

競技会事業部

I 事業の状況

1. コントラクトブリッジ競技会の主催と公認

【収入 175,933 千円／予算 175,528 千円】

競技会の開催と公認については、本年度は以下の事業を実施した。

(1) 競技会的主催 (収入 51,117 千円／予算 54,820 千円)

1) ナショナル (全国大会) 競技会 (収入 30,584 千円)

競技会名	日 程	参加卓数	(前年度)
玉川高島屋S・C杯	4月18、19日	85	(89)
文部科学大臣杯関東予選	5月 9、10、16、17日	74	(50)
藤山杯	7月 4、5日	116	(141)
外務大臣杯	8月22、23日	58.5	(67.5)
高松宮記念杯	9月19、20、21、26、27日	102	(101)
全日本女子ペア選手権	10月24、25日	141.5	(178)
高松宮妃記念杯	10月31日、11月 1日	85	(80)
NISSANブルーリボン杯	12月23日	123.5	(126.5)
エンゼル・レッドリボン杯	12月23日	40.5	(39.5)
朝日新聞社杯	1月 9、10、11日	161	(148)

2) リジョナル競技会 (収入 17,356 千円)

競技会名	日 程	参加卓数	(前年度)
柳谷杯	4月 4、5日	135	(141)
サントリー杯	4月29日	117.5	(119)
日本航空杯	5月23、24日	64.5	(70.5)
モンタルト杯	7月25、26日	38	(35)
丸の内杯関東予選・決勝	8月29、30日	9	(11)
夏季シニアチーム	8月29、30日	7	(13)
萩原杯	10月 3、4日	99	(93)
服部杯	12月 2日	172.5	(190.5)
春季リジョナル	3月20、21日	30	(27)
渡辺杯	3月27、28日	52	(47)

3) 日本リーグ (収入 3,360 千円)

日本リーグ1部、2部	前期、後期	40	(40)
------------	-------	----	-------

4) 社会人リーグ (収入 288 千円)

社会人IMPリーグ	11月～3月	16	(17)
-----------	--------	----	-------

5) 参加料割引 (-471 千円)

(2) 競技会の公認 (収入 122,028 千円／予算 118,048 千円)

1) ナショナル競技会 (収入 1,085 千円)

NRM杯、任天堂杯並びに主催ナショナル競技会 予選を含む19競技会を公認	168.5	(178)
---	-------	--------

2) リジョナル競技会 (収入 6,050 千円)

主催リジョナル競技会予選を含む41競技会を公認	1,304	(1,307)
-------------------------	-------	----------

3) セクショナル競技会 (収入 95,075 千円)

1,743 競技会を公認	32,097	(28,204)
--------------	--------	----------

4) ローカル競技会 (収入 1,769 千円)

454 競技会を公認	2,899	(2,840.75)
------------	-------	-------------

5) IMP リーグ (収入 29,034 千円)

5月～9月	2,585	(2,697)
11月～3月	2,555	(2,684)

7. その他競技会事業部の目的を達成するための事業

【41,577 千円／予算 42,067 千円】

競技会事業部の目的を達成するために必要な人件費、交通費、消耗品費、印刷製本費、賃借料など

国際交流事業部

I 事業の状況

1. 国際試合へ日本代表の派遣と選抜

定款第5条(5)に定める「コントラクトブリッジを通しての国際交流」については、本年度は以下の事業を実施した。

(1) 第46回太平洋アジアブリッジ連合(PABF)選手権への代表派遣及び運営協力 [2、449千円/予算3、737千円]

会 期：平成21年6月18日～28日

会 場：マカオ

事業内容：1) オープン、レディスおよびシニアの代表チーム派遣

結 果：オープンチーム（キャプテン前田尚志、メンバー古田一雄、陳大偉、井野正行、今倉正史、寺本直志、高山雅陽）は参加13ヶ国中2位に入賞し、プレイオフ1回戦で中華台北に勝ってバミューダボウルへの出場権を獲得、レディスチーム（キャプテン黒川晶夫、メンバー島村京子、伴野和子、西田奈津子、宮国亜矢子、中尾共栄、坂本みどり）は10ヶ国中2位に入賞し、プレイオフ1回戦でインドネシアに敗れたが2回戦で中華台北に勝ってベニスカップ出場権を獲得、シニア山田チーム（山田彰彦、大野京子、中村嘉幸、平田眞）は9ヶ国13チーム中3位に入賞し、プレイオフ1回戦で香港を破ってシニアボウルへの出場権を獲得、シニアSKOTIIチーム（桜井恒夫、朝岡健一、多田武彦、伊藤菊夫、神代高弘）は8位となった。

事業内容：2) PABF代表者会議へ役員派遣

結 果：大会会期中に開催されたPABF代表者会議に宮国健次副会長がPABF幹事長、吉田正事務局長がPABF事務局、平田眞常任理事及び古田一雄理事が代表委員として出席した。

事業内容：3) 大会運営スタッフの派遣

結 果：事務局から大政哲人および仲村篤志の2名をスコアリングスタッフとして派遣し、連盟が開発したJTOSを使用して大会運営に協力した。

(2) 世界ゾーンチーム選手権への代表派遣 [6、870千円/予算10、167千円]

会 期：平成21年8月29日～9月12日

会 場：サンパウロ、ブラジル

事業内容：第46回PABF選手権で代表権を獲得すれば8月29日～9月12日に開催される世界ゾーンチーム選手権に代表を派遣する

結 果：オープン（キャプテン前田尚志、メンバー古田一雄、陳大偉、井野正行、今倉正史、寺本直志、高山雅陽）は予選22チーム中10位、ウィメンズ（キャプテン黒川晶夫、メンバー島村京子、伴野和子、西田奈津子、宮国亜矢子、中尾共栄、大野美智子）は予選22チーム中16位、シニア（山田彰彦、大野京子、中村嘉幸、平田眞、神代高弘）は予選22チーム中9位でいずれも決勝トーナメント進出はならなかった。

(3) 国際試合への派遣 [予算450千円]

事業内容：各国ブリッジ組織から日本代表チームへの招待があった場合チームを派遣する。

結 果：該当の試合がなかったため、派遣は行わなかった。

- (4) 第47回PABF選手権日本代表選抜試合 [494千円/予算838千円]
会 期：平成21年11月14、15日、12月12、13日
会 場：四谷ブリッジセンター
事業内容：1)平成22年にニュージーランドで開催予定の第47回PABF選手権に参加するオープン、ウィメンズ各1チームを選抜
2)選抜試合参加者への交通費と宿泊費の助成
3)代表チームへの国内試合参加料、練習会費用の助成
結 果：【オープン】3チーム18名が参加し、井野正行、寺本直志、加来浩、古田一雄、河野誠、横井大樹の6名を代表に選抜した。
【ウィメンズ】4チーム24名が参加し、宮国亜矢子、福吉由紀、近藤久子、勝部雅子、小林弘子、塚本千寿子の6名を代表に選抜した。
- (5) 代表チームユニフォーム助成 [95千円/予算840千円]
事業内容：日本代表メンバーにユニフォームとエンブレムを支給した。

2. 第15回NECブリッジフェスティバルの開催 (22,617千円/予算23,263千円)

- 会 期：平成22年2月9～14日
会 場：横浜国際平和会議場
事業内容：国外の一流チームを招待して日本人プレイヤーの技量向上と国際交流の促進を図る。
- 結 果：1)NEC杯：平成22年2月9～13日
(収入2,040千円/予算2,400千円)
国外から16の国と地域のプレイヤーで構成される15チーム(中国女子、イタリア、フランス/イタリア/ポーランド、オランダ、オーストラリア(2チーム)、カナダ/米国/英国、スペイン/アルゼンチン、ブルガリア、英国女子、英国、南アフリカ/スウェーデン、=以上招待チーム、中国、韓国、香港)、国内参加チーム33チームの合計48チームが参加し、イタリア(Maria Teresa Lavazza, Norberto Bocchi, Agustin Madala, Giorgio Duboin, Antonio Sementa, Guido Ferraro, Massimo Ortensi (Coach))が優勝した。
- 2)横浜スイスチーム：平成22年2月13日(82チーム)
(収入1,360千円/予算1,400千円)
優勝：David Kendrick, Brian Senior, Jonathan Cooke, Martin Garvey
- 3)飛鳥杯：平成22年2月14日
(収入1,085千円/予算1,300千円)
170ペア参加、Alon Apteker-Craig Gowerペアが優勝。
- 4)横浜IMPペア：平成22年2月12日
(収入372千円/予算400千円)
57ペア参加、Michal Kopecky-Milan Macuraペアが優勝
- 5)BIGLOBEシリーズ：平成21年9月～12月
(収入6,461千円/予算6,500千円)
32クラブで665回開催、延べ24,788名参加
- 6)NECブリッジ体験教室の開催(普及事業部扱い)
普及事業部で報告。
(フェスティバル収入合計12,448千円/予算12,500千円)

3. その他国際交流事業の目的を達成するための事業

本年度は、国際交流事業の目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施した。

- (1) 世界同時大会への参加（収益420千円）
会 期：平成21年6月5日、6日
会 場：公認クラブ、ブリッジセンター
事業内容：平成21年6月5日および6日に開催される世界同時大会に参加協力する。
結 果：6月5日（金）＝12クラブ、512名参加
6月6日（土）＝13クラブ、318名参加
- (2) PABF同時大会への参加（収益656千円）
会 期：平成21年11月～平成22年4月
会 場：公認クラブ、ブリッジセンター
事業内容：平成21年11月～平成22年4月まで毎月第1金曜日／土曜日に開催されるPABF同時大会開催に参加協力する。
結 果：11月＝16クラブ、606名参加
12月＝16クラブ、534名参加
1月＝15クラブ、546名参加
2月＝16クラブ、618名参加
3月＝16クラブ、612名参加
（4月＝16クラブ、580名参加）
- (3) WBFチャリティペアへの参加（収益428千円）
会 期：平成22年1月25日～30日
会 場：公認クラブ、ブリッジセンター
事業内容：平成22年1月25日～30日に開催されるWBFチャリティペアに参加協力する。
結 果：1月25日＝1クラブ、42名参加
1月26日＝5クラブ、202名参加
1月27日＝5クラブ、244名参加
1月28日＝4クラブ、154名参加
1月29日＝2クラブ、84名参加
1月30日＝2クラブ、44名参加
- (4) 海外競技会に参加する会員の支援と海外への情報提供と収集
 - 1) ACBLとの提携の継続・強化：ACBL競技会を会報で紹介
会報にACBLナショナルの日程を掲載した。
 - 2) PABF加盟国競技会の開催情報の提供
香港インターシティ、ASEAN選手権などの開催情報を会報に掲載した。
 - 3) 各国ブリッジ組織とマスターポイント相互承認協定の締結交渉
ACBLの会員となっているJCBL会員・会友のマスターポイント情報を定期的にACBLに送付し、みなしマスターポイント(Eligibility Points)として登録している。
 - 4) JCBLホームページを通して海外に情報を提供するとともに、ブリッジ関連ホームページから情報を収集し、会員に提供する。
競技会案内とNECブリッジフェスティバルの英文情報をウェブサイトで公開した。
また、WBF、ACBLなど主要ブリッジ団体のウェブサイトにもリンクした。
- (5) PABFコンGRESS福岡大会開催準備（1,828千円）
事業内容：2012年に福岡で開催予定の第7回PABFコンGRESSの準備作業

を実施した。

- (6) その他目的達成に必要な経費[2,389千円／予算2,447千円]
交通費、通信費、会議費等の国際交流事業部の活動に必要な経費を支出した。

2009年度九州支部事業活動報告

(2009年4月1日～2010年3月31日)

(社)日本コントラクトブリッジ連盟九州支部

支部長 緒方 世喜子

九州支部結成4年目となった2009年度は、第7回PABFコンgressの福岡開催決定を受けて、ブリッジ普及事業・広報活動事業に一段と力を入れるとともに、同コンgressの成功に向けて、地元福岡に結成された「PABF2012 福岡委員会」の支援体制づくりを進めてまいりました。その結果、2月には、河部浩幸福岡商工会議所会頭を委員長とする同委員会の会合を開き、吉田宏福岡市長出席のもとに、官民一体となって同大会の成功を期することを確認、九州支部が提案した①企業・大学への同好会づくり②小委員会の設置③広報の強化の一の活動方針を打ち出すことができました。また同委員会に先駆けて、12月に理事懇親会を開き、九州地区ブリッジプレイヤーに参加を求め、PABFコンgressに対する勉強会を兼ねて、結束を図ったことも特筆すべきことでした。

九州支部の具体的なブリッジ普及事業としては、福岡市・宗像市・春日市で公民館や小学校でミニブリッジ体験教室を開くなど社会教育・学校教育現場での普及活動に努める一方、ミニブリッジ普及のボランティア育成を目指し、ミニブリッジインストラクター養成講座(2期生13人卒業、3期生17人受講中)を開催しました。またその受講者を中心に一般参加者に呼び掛けて、福岡ブリッジプラザでミニブリッジ土曜サロンやミニブリッジ大会「緒方杯」を開くこともできました。

本格的なコントラクトブリッジプレイヤーの育成に関しては、福岡ブリッジプラザの広報活動を支援するとともに、(株)九電工や福岡大学でブリッジ出前講座を開催しました。九州支部では、これらの参加者をシーダー(種まき人)役に九州地区の企業や大学に同好会づくりを目指しているところです。

広報活動では、多くの方々のご協力をいただきながら支部会報5号、6号と順調に号を重ね、当該年度末には通算7号目となるPABF大会特集号(初版8000部)を発行しました。発行人は「PABF2012」福岡委員会委員長の河部浩幸氏。事務局を引き受けている九州支部の責任で、福岡市文化振興課を窓口に関内市のすべての公立小・中学校、公民館等へ配布しましたが、大きな反響を期待しているところです。

また今年度から連盟会報「JCBL BULLETIN」にも「九州支部だより」コーナーを設けていただき、九州発の情報を全国の連盟会員・会友の皆様へ定期的に発信できるようになりました。

競技会関係では、山笠リジョナル・テレビ西日本杯(7月)も2回目を迎え、韓国から5チーム(2チーム分は招待)の参加を実現しました。終始、白熱したチーム戦が繰り広げられ、東海関東連合チームと九州チームが同率で首位を分け合うなど、地元プレイヤーの自信にもつながるとともに、PABFコンgressを前に国際親善の絆を深める、充実した

大会になりました。第34回九州リジョナル・第4回西日本新聞社杯（3月）では、関東ペアが上位を独占しました。九州のプレイヤーの更なる技術向上を願う立場からは残念な結果となりましたが、九州地区におけるブリッジ普及に力を貸そうという、全国各地のプレイヤーたちの熱い支援が実った大会でした。

2009年度の九州支部活動を概観すれば、PABF2012大会の準備は言うまでも無く、九州における今後の更なる普及活動等、課題は山積しております。また連盟直轄の福岡ブリッジプラザや利用者である地元プレイヤーとの連携も喫緊の課題ですが、事務局長を中心にした新たな支部体制も整う運びになり、新年度は大きな期待を担ってスタートできると考えています。理事会一体となって九州地区のブリッジ普及、PABFコンGRESの成功を目指して、努力してまいる所存ですので、宜しくお願いします。

主な活動事業

■社会教育・学校教育での普及活動（ミニブリッジ一日体験教室開催）

■ミニブリッジインストラクター養成講座（2期生・3期生講座）

■同好会づくり（株九電工と福岡大学でブリッジ出前講座）

■会報発行

第5号 1NT（ワンノートランプ）（6月8日発行）

第6号 2C（ツークラブ）（11月8日発行）

第7号 2D（ツェルダイヤモンド） PABF大会特集（3月31日発行）

■大会実績

第2回山笠リジョナル・テレビ西日本杯 24チーム参加

2009年7月12日 会場：福岡交通センター

第4回西日本新聞社杯（九州リジョナル ペア戦） 46ペア参加

2010年3月7日 会場：福岡交通センター

ミニブリッジ大会「緒方杯」

福岡ブリッジプラザ2009年度事業活動報告

(2009年4月1日～2010年3月31日)

プラザ設立3年目の2009年度は、期初よりマネージャが、昨年度までの山菅氏から、大石氏に代わった。運営は基本的には前任者のときに敷いた路線を踏襲した。その結果、今年度については、十分とは言えないまでも順調にそこそこの実績が上げられている。それぞれの計画値と比較すると下方に乖離が見られるものもあるが、これは計画値が期待値として上方に設定されていたのも一つの理由であろう。その反面、計画値を大きく上まわる実績を上げている項目も少しあるので全体として前述の結果となったものである。

また、福岡ブリッジプラザを地元のプレイヤーが運営して行くに当たって、幹事会を核として、各種事業を計画実行していくための委員会を設置し、組織的に動いていくことを提案していたが、現時点では実質的に幹事会のみ活動である。そういう意味で福岡ブリッジプラザの運営の組織化は不十分であった。

[主な事項]

1.体験教室

9月の体験教室 参加19名(計画 30名)

知人9、新聞1、タウン誌5、機関誌3、他1

3月の体験教室 参加28名(計画 40名)

知人15、タウン誌9、ウェブ2、他2

2.入門講習会

4月～9月の入門講習会 14名受講(計画 20名)

知人5、新聞5、タウン誌4、他2

10月～3月の入門講習会 6名受講(計画 15名)

知人1、新聞1、タウン誌2、機関誌2

3.外部入門講習会(最終的にはブリッジを目指している)

西高宮公民館、白浜町公民館、つつじヶ丘公民館ほか

4.サロン

月曜午前、火曜午前、水曜午前、木曜午後、金曜午前・午後実施

延べ 1,663名(計画 1,600名)

5.レベルアップ講習会

入門レベルアップ 年間延べ 36名(4月入門)

初級レベルアップ 年間延べ 105名(前10月入門)(計画 300名)

中級レベルアップ 年間延べ 191名(前4月入門)(計画 200名)

6.ウィークリーゲーム

月曜午後 平均2テーブル 延べ456名(計画 300名)

火曜午後 平均6テーブル 延べ802名(計画 1,200名)

水曜午後 平均3テーブル 延べ602名(計画 600名)

月例会 平均7テーブル 延べ290名 (計画 700名)
(月1回実施) (計画 月2回)

7.ローカル

月2.5回 平均3テーブル 延べ326名 (計画 360名)

8.IMP リーグ

新人リーグ 4チーム

火曜リーグ 5+5チーム 長崎、広島1チーム (計画 6チーム)

金曜リーグ 6+6チーム

土日リーグ 5+5チーム 長崎、熊本、広島1チーム (計画 6チーム)

9.セクショナル

以下のゲームを追加

イーブンチャンス 3回 (計画 4回)

ハンディキャップペア 1回 (計画 2回)

新人セクショナル 2回 (計画 2回)

10.ナショナル(リジョナル)予選

文部科学大臣杯 2テーブル (計画 6T)

外務大臣杯 4テーブル (計画 6T)

高松宮妃記念杯 3テーブル (計画 5T)

柳谷杯 5テーブル (計画 5T)

玉川高島屋SC杯 2テーブル (計画 4T)

全日本女子ペア 2.5テーブル (計画 4T)

その他の事業

1. その他連盟の目的を達成するための管理部門を含む事業（30,209千円／ 予算32,190千円）

本年度は、目的を達成するために必要な事業として、以下の事業を実施した。

(1) 事務局（一般管理費）の維持

理事会の管轄の下に事務局を設置して諸事業活動を支援した。

平成21年度重要業務

- 4月 1日 職員に平成21年度辞令交付
新日本監査法人による現金実査、商品棚卸実施
- 18日 新日本監査法人、監事立ち会いで平成20年度決算書作成、監査
- 4月30日 第28回会員総会開催通知発送
- 5月23日 第28回会員総会開催、173名参加
- 5月31日 平成20年度決算書を四谷税務署、新宿都税事務所に提出
- 6月15日 文化庁文化部芸術文化課に、平成20年度事業報告及び収支決算報告書、平成21年度事業計画及び収支予算届を提出
- 8月 7日 文化庁文化部芸術文化課に文部科学大臣杯終了届を提出
- 11月26日 文化庁文化部芸術文化課に特例民法法人現状調査票を提出

(2) 収益事業の運営（収益事業特別会計に計上）

1) 商品販売事業

ブリッジ用品および書籍の販売と仕入れを行った。収支については収益事業決算書を参照されたい。

2) 四谷ブリッジセンターとの提携

NPO法人四谷ブリッジセンターとの業務契約書に基づいて協同して会場施設の運営とブリッジの普及・振興に務めた。

(3) 基金の運用

主催クラブの指定により、ローカル並びにクラブ選手権試合の公認料を次の基金の資金に充当して各種活動を支援した。

1) チャリティ基金（3,515千円）

日本赤十字社等の各種団体のほか、ハイチ地震、チリ地震等に次のとおり寄付した：

ハイチ地震義援金	1,000,000円
チリ地震義援金	500,000円
日本対がん協会	465,050円
全国視覚障害者雇用促進連絡会	200,000円
日本フォスター・プラン協会	200,000円
朝日新聞厚生文化事業団	100,000円
讀賣光と愛の事業団	100,000円
日比バガサの会	100,000円
高松宮妃癌研究基金	200,000円
癌研究会	150,000円
日本赤十字社	100,000円
横浜音声訳グループやまびこ	50,000円
アイメイト協会	100,000円
あしなが育英会	100,000円
日本イコモス国内委員会	100,000円
国連WFP協会	50,000円
合計	<u>3,515,050円</u>